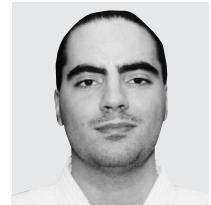


「柔道」



田丸 真也さん
(国際教養学科1年次生)



マルチロ・デ・モリス・ディアス・イ・モリスさん
(授業アシスタント、出身地・ブラジル)

今日は、ブラジルの柔道の歴史を中心にお話しします。1800年代の末に嘉納治五郎により柔道が創られました。嘉納さんは、柔術を習って自分自身の武道を考えだしたのです。

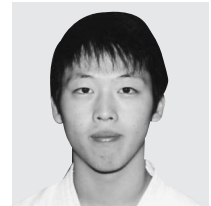
嘉納さんの生徒で富田常次郎さんという方がおられました。この人がアメリカに行き、柔道を広められました。富田さんは、前田光世さんに柔道を教えて、この人がブラジルに柔道を広めたのです。前田さんは大変タフな方で生涯2000回試合をして、柔道を広めました。ブラジルでは、柔道の帯にたくさん種類があります。それは、柔道を指導する学校や宗教によって色が異なるからです。



「和の心、合気道の心」



國松 祐巳子さん
(英米語学科4年次生)



大角 和矢さん
(イタリア語学科4年次生)

合気道の稽古などで履く袴は、腰より下を覆うようにして着用する衣服の一部です。胴着の上から履き、紐で結ぶ。膝より下の部分がキュロットスカート状になるように縫製した構造になっています。足を入れても十分に余裕があり、裾にいくほど布が大きく広がります。前布、後布の最上部の左右に紐があり、計4本の紐で袴を固定させます。

合気道の原点は、植芝盛平が大正末期から昭和前期にかけて始めた日本の武道で、日本古来の柔術、剣術などを基に成立した体術を主にする総合武術です。本学の合気道は、植芝盛平を師とした藤平光一が創始者です。心身統一合気道の流派で、心が身体を動かすという氣の原理を通して心の在り方を知る武道です。型が数多くあり、稽古ではその型を学びながら心の使い方も共に学びます。型には様々あり、基本的には投げ技・固め技で、相手を傷つけずに制することが出来ます。合気道の技は、相手の攻撃に対する防御技・返し技です。攻撃は牽制程度で攻撃中心の稽古はしません。合気道で何の目的で袴を着用するかといえば、相手に次の動きを読まれないようにするために、足の動きを隠すためなのです。合気道の技は基本的に足を大きく動かすものが多いので、足下を隠すことで相手に悟られずに動くことが出来ます。

心身統一合気道では、技術によって級や段を与えられます。5級から始まり、技術を磨くごとに級が上がっていきます。京都外大の合気道では、3級を取った時点で袴の着用が許可されます。3級を取得するまでは、足の動きがしっかりできていないか確認するためにあえて袴を着用せずに稽古しますので、袴を着用出来るということは、合気道の技術が身に付いたことを意味して袴は一種のステータス的な存在です。